

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも…

Vol.26

## あやしい人は見分けられるの？



次のうち あやしい人は何人いるでしょう？



©Tanimizu

「選ばれましたか？答えは「わかりません」と答えた人が、安全感の高い人といえるのだそうです。スーツ姿で身ぎれいにしていれば、いい人なのでしょう。サングラスやマスクをしてニット帽をかぶった人が不審者なのでしょうか？考えてみれば、わたしたちは子どもに「悪い人に気をつけて」と諭しますが、外見では判断がつかないもので、あらかじめ不審者かどうかは分からないのです。悪いことをしようとする人はサングラスやマスクをしていかにも不

審者だという雰囲気でも子どもに近づいてきたりしませんよね。一方で、人に会ったら挨拶をしましうって教えられていますから、子どもも迷ってしまいます。安全安心なまちづくりを進めるにあたっては、犯罪原因論と犯罪機会論というのがあり、犯罪原因論というのは、犯罪には原因があるからまず原因を探す。それを探したらその原因をなくす。犯罪者をなくす。犯罪者の心を直す。といった理論です。もうひとつの犯罪機会論とい

うのは、悪いことをしようとする人に対してそのチャンスをつくらせない。地域からできるだけ犯罪の機会を減らす、とするものです。犯罪の機会を減らすというのは「このまちの人たちは、みんな自分の住むまちに関心を持っているなあ」と思わせることなのだそうです。例をあげると、ゴミが散乱していない、放置自転車や路上駐車がない、小まめに草刈りをしてい、いい意味で縄張り意識の高い地域ともいえます。犯罪者からすれば、何か悪いことをしたらずくに通報されそうだと、地域の人から外からきた自分を注目しているうだ、という雰囲気づくりが有効だということです。

そこで、11月4日（月・振）午後、だいたいしようびキヤンペーン／地域安全マップ教室を開催します。単なる通学路の安全マップのみならず、地域づくりに役立つ実践的なアドバイスをいただきます。講師は「世界一受けた大学の小宮信夫教授です。詳細は10月号でもお知らせします。私イチオシの講演会です。お楽しみに！



Vol.184

教育委員会生涯学習課

☎ 1268

## 災害と人権 これからわたしたちは

日本は、自然災害が発生しやすい国土であることはよく知られています。平成の時代の30年間は多くの自然災害が日本を襲い、各地に甚大な被害をもたらしました。特に女性や子ども、高齢者や障がいのある人など、災害時に弱い立場になりやすい人々への影響は非常に大きいもので、人権の視点からも解決すべき多くの課題を投げかけました。

ハンディキャップがあるため、迅速な避難行動や正確な情報収集ができず、多くの尊い命が奪われました。また、日常生活が破壊され、長期の避難生活を余儀なくされたことによるトラブル、根拠のない思い込みや風評被害、偏見によるいじめの問題も発生しました。

これらのことを受け、東日本大震災後改正された災害対策基本法では、人権の観点から「避難に配慮を要する人についての対策」「一定期間滞在する避難所の指定」を明示しました。これは、被災した人々が基本的な生活を営むことが保障されなければならぬという理念を示したもので、世界人権宣言や日本国憲法が定める「人間らしく生きる権利」の実現が求められているのだといえます。

災害時という非日常では、多くの人が傷つき、困難やストレスを感じるため、誰もが被害者にも加害者にもなりうる可能性があります。また、周囲を見る余裕がなくなり、一部の人が我慢をしているという状況が生まれます。そういった困難を乗り越えるためにも日頃から周囲への思いやりや、相手の立場に立つて物事を考えることを大切にしたいものです。

9月1日防災の日に、防災への備えを見直し、防災と人権についても考えてほしいと思います。さまざまな機会に人権について考え、人権意識を高めることも災害への備えのひとつです。